

<TAC>無断複写・複製を禁じます

忙しい社会人のための時間管理術
「社会人のための税理士試験突破法」

TAC税理士講座

目次

	ページ
テーマ1 税理士への道	1～5
テーマ2 受験計画	6～9
テーマ3 社会人のための学習法	10～15
テーマ4 具体的な学習方法	16～18

テーマ 1

税理士への道

税理士は、納税者の納税義務が適正に実現されるための業務を行うと同時に、国の財政等に直接関係する業務を行っており、社会的に重要な職業です。さらに、その業務内容は、従来からの税務業務や会計業務にとどまらず、経営コンサルティングや国際税務など多岐にわたっています。

ただし、税理士として業務を行うためには、税理士試験に合格しなければなりません。ここでは、税理士試験の詳細について、データとともに紹介致します。

◆ 1 税理士試験の概要

税理士試験は、例年8月上旬の平日3日間に行われ、合格発表は、例年12月中旬に行われます。税理士試験の特徴として、科目選択制度と科目合格制度があります。

◆ 2 科目選択制度

科目選択制度とは、税理士試験の試験科目全11科目から5科目を選択することができる制度です。試験科目の中には、下記の表で示すような必須科目・選択必須科目等の制約もありますが、この制度により科目選択にかなりの幅が認められています。

会計科目	必 須	簿 記 論 財務諸表論	会計科目は、必ず合格しなければなりません。
税法科目	選択必須	法 人 税 法	法人税法または所得税法のどちらか1科目以上は合格しなければなりません。
		所 得 税 法	
	選 択	相 続 税 法	選択科目のうち、酒税法と消費税法、事業税と住民税はどちらか1科目しか選択できません。
		酒 税 法 or 消 費 税 法	
		固 定 資 産 税	
		事 業 税 or 住 民 税	
		国 税 徴 収 法	

◆3 試験科目の内容

1 必須科目

科 目	特 徴
簿 記 論	企業の経営活動をどのように記録し、計算するかを学習する科目です。試験は制限時間2時間で3問出題され、第1・2問は大学教授が出題するため学問的、第3問は実務家が出題するため実務的な問題が出題されています。
財務諸表論	株主等に報告するための財務諸表（報告書）を作成するまでの考え方や約束事について学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は会計に関する考え方について論述式により、計算は会社法等の法律等に従って実際に財務諸表を作成する形式で出題されています。

2 選択必須科目

科 目	特 徴
法 人 税 法	会社の儲けに対して課される税金について定めた法人税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は法人税の規定を論述させる形式で、計算はある会社の納付すべき法人税額までを求めさせる具体的な形式で出題されています。
所 得 税 法	私たち個人が1年間に稼いだ儲けに対して課される税金について定めた所得税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は応用問題と個別問題をそれぞれ論述させる形式で、計算は自営業を中心とした個人の納付すべき所得税額までを求めさせる具体的な形式で出題されています。

3 選択科目

科 目	特 徴
相 続 税 法	財産が無償で個人から他の個人に渡った場合に財産を取得した者に課される税金について定めた相続税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題されますが、簿記の知識を必要とせず、理論と計算は密接に関連しているため、効果的な学習が可能な科目といえます。
酒 税 法	アルコール飲料に対して課される税金について定めた酒税法という法律の考え方を学習する科目です。試験は理論と計算に分けて出題され、理論は酒税法の体系的な理解を問う問題が多く、計算は酒類製造業者の1月間に出庫した酒類に対して納付すべき酒税額を求めさせる具体的な形式のものが出題されています。
消 費 税 法	消費税は、商品の販売やサービスの提供などに対して課税され、価格に上乗せされて最終的には消費者が負担する間接税で、事業者が預かった税金を計算する科目です。試験は他の科目と同じように理論と計算に分かれて出題されます。税理士の実務で最も重要な科目のひとつといえます。
固定資産税	土地・家屋・償却資産といった固定資産に対して課される税金について定めた地方税法という法律の中の固定資産税編についてその考え方を学習する科目です。出題傾向が安定していて学習しやすく、他の科目と同じように理論と計算に分かれて出題されています。
事 業 税	事業活動を行う法人又は個人は公共施設の利用が不可欠であり、この公共施設の維持・保護等の経費負担として都道府県がその事業者に対して課する税金が事業税です。試験は通常、理論を中心に出題され、特に第1問の理論の内容が事例問題であるため合否のカギとなっています。なお、法人税に関する知識があれば効率的に学習できます。
住 民 税	所得のある個人及び法人等に対して課される税金で、地方税法に定められている都道府県税及び市町村民税に関する部分を総称したものです。試験は理論と計算に分けられ、理論は個人または法人から2問、計算は総合問題が出題されます。なお、所得税に関する基礎知識があれば、効率的に学習できます。
国税徴収法	国税徴収法は単に国税の徴収のみならず、地方税等の徴収のベースとなっている大切な法律です。試験の出題はその殆んどが論述形式の理論問題と短答問題で占められています。法律がどのように関連しているのか理解することを目的としているため簿記の知識は全く必要ありません。

◆4 科目合格制度

科目合格制度とは、1科目ずつ受験することができ、1度合格した科目は生涯有効になる制度です。つまり、1度の受験で5科目すべてに合格する必要はなく、毎年少しずつ合格科目を積み重ねることにより、複数年かけて5科目合格を達成すればよいのです。したがって、1年に1科目ずつ確実に合格し、5年計画で税理士になる資格を取得することも可能です。

また、科目合格の段階でも評価され、就職や転職に当たり有利に働くことも、科目合格制度のメリットです。つまり、ライフスタイルや将来プランに合わせて受験でき、一歩ずつステップアップしながら、着実にゴールを目指すことができます。

科目合格制度のポイント

- 1度で5科目合格する必要はなく、1科目ずつ受験できる
- 受験科目ごとに合否が判定され、合格科目は翌年以降の試験が生涯免除される
- ライフスタイルや将来プランに合わせて受験できる
- 科目合格の段階でも評価される（就職・転職に断然有利！）



一歩ずつステップアップしながら、確実に税理士資格を取得できる！

◆5 合格基準

税理士試験の合格基準は、各科目ともに満点の60%（すなわち60点）となっていますが、出題される問題の難易度やボリュームに関わらず、各科目の合格率は、ほぼ10～15%で毎年安定しています。つまり税理士試験は、全受験者のうち上位10～15%の人が合格する**競争試験**といえることができます。

◆6 税理士試験に合格するためには

税理士試験は、どの科目の出題もボリュームが多く、2時間という制限時間内にすべてを解答できる問題はほとんど出題されません。しかしながら、**本試験では問題のすべてを解答する必要はありません**。満点の60%（つまり60点）以上が、公表されている合格基準だからです。

また、難易度については、年によりかなりバラツキがあります。ある年の合格ラインはTACでの予想配点で70点位、明くる年では40点位というように、簡単な年と難しい年では約30点もの開きがあります。では、なぜ毎年一定の合格率を保っているのでしょうか？

実は、正解率の高い解答箇所の高い配点を置き、正解率の低い解答箇所は配点を軽くする等の採点上の調整が行われているのです。したがって、難しい箇所が解答できたか否かではなく、受験生の多くが解答できる基本的事項をどれだけ確実に得点したかで、合否は決まります。

合格のポイント

- ・ 2時間では解けきれないボリュームの問題が毎年出題される
- ・ 難易度に関係なく毎年一定の合格率を保っている
- ・ 合否をわけるのは基本的事項の正解率



基本的事項をしっかり固め、それを確実に得点していくことが大切！



参 考 最近5年間の科目別合格率の推移

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
簿記論	12.5%	14.2%	9.9%	12.5%	14.8%
財務諸表論	15.2%	16.1%	16.0%	13.1%	16.6%
法人税法	12.3%	11.0%	12.1%	12.6%	12.5%
所得税法	12.7%	12.8%	13.4%	14.3%	13.4%
相続税法	9.8%	12.4%	14.7%	13.9%	11.6%
酒税法	10.2%	10.8%	10.4%	12.3%	12.3%
消費税法	10.1%	13.3%	12.4%	12.3%	13.7%
固定資産税	14.1%	10.3%	10.0%	10.5%	12.2%
事業税	9.6%	10.1%	13.8%	11.9%	17.1%
住民税	15.0%	14.6%	18.2%	16.2%	16.5%
国税徴収法	10.9%	11.1%	11.3%	12.1%	13.3%

テーマ 2

受験計画

税理士試験の受験計画を立てるにあたっては、「長期的目標（何年で5科目に合格するか?）」と「短期的目標（次の試験でどの科目を受験するか?）」の2つの目標を明確に持って下さい。

◆1 長期的目標（何年で5科目合格を目指すか?）

何年で5科目合格を目指すかは、「学習に当てられる時間がどれ位あるか」、「簿記の知識はあるか」、「どの科目を選択するか」等によって左右されます。時間的に制約される**社会人の場合、3～5年位を目安にするのが一般的です。**

税理士試験の各試験科目は、下記の図の通りボリュームがマチマチです。ボリュームの少ない科目を組み合わせることで、仕事をしながらでも1年で複数科目の合格も可能となります。



（注） 標準学習時間には、TACでの講義時間を含みます。なお、学習時間は個人差がありますので、目安としてお考えください。

◆2 短期的目標（次の試験でどの科目を受験するか?）

長期的目標が定まったならば、次に「最初の試験でどの科目を受験するか?」を決めましょう。なお、その際には、次の点に留意してください。

1 1週間あたりの学習可能時間を正確に見積もる

どれだけ能力のある方でも、学習に充てる時間が物理的に不足していると、良い結果を得ることはできません。まずは、次の表に基づいて可処分時間（学習に充てられる時間）を計算してみましょう。

(単位：時間)

	月	火	水	木	金	土	日	合 計
可処分時間								

2 各科目の特徴を把握する

税理士試験の各科目には、「簿記知識が必要な科目とそうでない科目」、「初めての受験に向いている科目とそうでない科目」というようにそれぞれ特徴があります。これらを把握して、適切な受験科目の選択を行って下さい。

(1) 各科目の簿記知識の必要性

簿記の知識が不要な科目	相続税法	酒税法	固定資産税	国税徴収法
簿記3級の知識が必要な科目	消費税法	事業税		
簿記2級の知識が必要な科目	簿記論	財務諸表論	所得税法	
簿記論・財務諸表論の知識が必要な科目	法人税法			
所得税法の知識が必要な科目	住民税			

(2) 初めての受験に向いている科目

簿記論・財務諸表論といった会計科目は必須科目であり、その知識は法人税法及び消費税法等の学習において役立ちます。また、これらの科目は、同時に学習すると相乗効果が得られます。しかし、それぞれボリュームがあるため、いずれか1科目選択するのであれば、簿記論をおすすめします。

(3) 2回目以降の受験に向いている科目

法人税法・所得税法といった選択必須の科目はボリュームが多いことから、税理士試験の学習スタンスが確立した2回目以降に受験されることをおすすめします。また、事業税や住民税は、法人税法・所得税法と深く関連することから、これらは法人税法・所得税法と同時に、もしくは学習後に受験するのが好ましいといえます。

3 科目選択の具体例

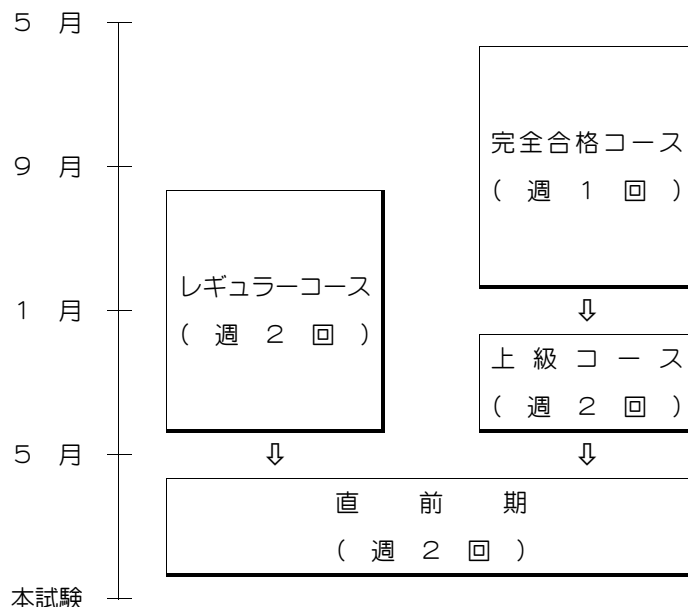
学 習 時 間 ↑ ↓	週35時間程度	簿記論 + 財務諸表論 + 税法科目(ボリューム少)※
	週25時間程度	簿記論 + 財務諸表論
	週20時間程度	簿記論 or 税法科目(ボリューム少)※
	週10時間程度	簿記論

※ 消費税法・酒税法・固定資産税・国税徴収法のうち、いずれか1科目

◆3 コース選択

現在～9月から学習可能なコースには、「レギュラーコース」と「完全合格+上級コース」があります。

1 各コースの概要



(1) レギュラーコース

レギュラーコースは、9月から4月までの8カ月間の学習期間を設けて、じっくりと実力を養成していく、税理士試験初挑戦の方におすすめのスタンダードコースです。

具体的には、各月ごとに7回の講義と1回の実力テストを行い、講義の回ではミニテスト（前回の講義内容についての確認テスト）を毎回実施します。また、実力テストでは、各月の学習内容に関する確認問題を出題します。

(2) 完全合格+上級コース（簿記論・財務諸表論）

完全合格+上級コースは、初めて学習される方を対象に5月から翌年の本試験合格を目指すコースです。年内は週1回のペースで通学し、8カ月間かけてじっくり合格に必要な知識を習得します。年明けからは上級コースに合流して週2回のペースで通学し、アウトプットトレーニングを積み重ねることで、早い時期から実践力が身に付けることが可能になります。

(3) 直前期（両コース共通）

5月から本試験直前までの3カ月間において、10回の講義と10回の答練を実施します。

講義では、本試験の試験委員の分析を行うとともに、4月までの学習内容についてのまとめを行います。また、答練では、「実力完成答練(全6回)」「直前予想答練(全3回)」及び「全国公開模試」といった難易度や目的の異なる本試験形式の問題を解いて、どんな問題が出題されても十分対応できる能力を身につけます。



参 考 オプション講座のご紹介

1 簿記入門コース

税理士試験の会計科目（簿記論・財務諸表論）を学習するにあたり、日商簿記検定2級（商業簿記）程度の知識が必要になりますが、この知識は簿記入門コースで得ることができます。

簿記は全くの初心者という方は簿記入門Ⅰ（全8回）より、日商簿記検定3級レベルの知識をお持ちの方は簿記入門Ⅱ（全8回）より受講しましょう。なお、「簿記の勉強をしたのが、かなり昔なので不安だ!」という方は、簿記入門Ⅰから受講することをお勧めします。

簿 記 初 心 者 の 方

簿 記 3 級 レベル の 方

簿 記 入 門 Ⅰ

⇒

簿 記 入 門 Ⅱ

⇒

税 理 士 試 験 科 目

2 簿記論先取り学習講座

完全合格コース・簿記論を申し込まれた方は、「簿記論先取り学習講座」をビデオ(DVD)講座・Web通信講座にて無料で受講できます。

当講座(全4回)では、日商簿記検定2級レベルの方を対象として簿記論で出題される未学習論点の先取り学習を行います。開講までの時間を有効活用すべく当講座を受講し、4月からスタートダッシュを決めましょう!

学 習 論 点

①特殊商品売買

②税金

③社債

④有価証券

⑤人件費

テーマ 3

社会人のための学習法

「時間がないから勉強できない！」そう思い込んでいませんか？また、「時間に余裕がある時の方が事が進まない！」という経験はありませんか？

税理士試験は長丁場です。特に、社会人が継続的かつ効果的に学習を行うためには、それ相応の努力と工夫が必要です。ここでは、学習を進めるためのちょっとした工夫を提案します。皆さんが学習をすすめていく上で、少しでも参考になれば幸いです。

◆1 無理のない学習計画を立て、それを確実に実行する

毎日学習時間を少しでも多く確保し、その時間に必ず机に向かうことが、合格を勝ち取るための最大のカギです。特に、税理士の受験勉強は長丁場なので、受験勉強を生活の一部として習慣付ける必要があります。当たり前の事ではありますが、その当たり前を実行に移すのが本当に難しいのです。

では、確実に実行するためには？

ポイントは、無理のない学習計画を立てることにあります。

社会人の場合、当初予想していなかった仕事等の突発的事象に見舞われる事が大いに考えられます。その結果、計画通り学習が進められず、志半ばで挫折してしまう方も少なくありません。したがって、学習時間はある程度ゆとりをもって見積もる必要があります。

◆2 週間スケジュール表の作成&実行

税理士試験の学習期間は、各科目とも約1年間です。受験勉強を生活の一部として習慣付ける必要があります。そこで、「週間（習慣？）スケジュール表」を作成し、それを確実に実行して下さい。なお、作成にあたっては、次のことを考慮します。

1 優先順位を考える

無理な学習計画を立てないためにも、生活の中での優先順位を考えて、ゆとりをもったスケジュールリングを心がけましょう。

スケジュール表作成にあたっては、次の順序で記入していくと好ましいです。

- (1) コアタイム（睡眠、食事、移動、TAC講義等）を記入する
- (2) 空いている時間に復習時間を設定する

復習時間を設定する際は、次の点に留意すると「知識の定着」や「学習の習慣付け」という面で効果的です。

- ① 毎日コンスタントに復習時間を設ける
- ② 土日のいずれか一日は予備日として時間を空けておく（突発的事象に備える）

2 生活リズムを朝型にシフトする

合格者の中には「生活リズムを朝型にして、学習時間を確保した。」という方が結構います。夜の疲れ切った頭より、朝のすっきりした頭で学習した方が効率的だからというのが理由です。短い時間ではありますが、時間が制約されるため「締切効果」が働き、かえって集中して学習できます。

3 復習するタイミング

(1) 講義を受けたらすぐ復習

学習内容を確実に身につけるには、講義を受けたすぐ後に復習するのが大変効果的です。

「エビングハウスの忘却曲線」によれば、私たち人間の記憶は、1時間後には56%、1日後には74%を忘却してしまうそうです。一方で、早めに復習すると、その内容の印象が強く残り、忘却曲線も緩やかになります。まさに「鉄は熱いうちに打て！」です。

短時間で結構です。講義終了後、移動時間等を使ってその日学習した内容をテキスト等で確認するようにしましょう。

(2) 計算の問題演習を毎日行う

毎回の学習内容は、テキストをしっかりと読み、講義を聞けば必ず理解できますが、それだけでは試験に合格できません。なぜならば税理士試験は筆記試験であり、頭にある知識を答案用紙に反映しなければならないからです。

したがって、「理解した」レベルから「問題が解ける」レベルにその知識を引き上げる作業が必要になります。それが問題演習です。

特に計算の知識の定着には、コンスタントに問題演習するのが大変効果的です。1時間だけの日があってもかまいません。毎日やりましょう。

また、たくさんの問題に1回ずつ当たるよりも、問題数のある程度絞ってそれを反復して解く方が、はるかに知識は定着しますし、応用も効くようになります。

(3) 理論は細切れの時間も利用

これも合格者の体験談ですが、「細切れの時間を有効利用した。」という事をよく耳にします。中でも移動時間はその代表例です。理論は暗記が学習の中心になりますので、暗記用の教材を常に携帯していれば、いつでもどこでも学習することができます。

また、『昼休み時間』もある程度まとまった学習時間として利用できます。これも時間が制約されている分、かえって集中して学習できます。

◆3 時間ではなく量で目標を立てる

学習するのにあたり、必ず小さな目標を常に立てると良いでしょう。小さな目標もコツコツ達成していけば、積もり積もれば山となり、最後には大きな目標を達成できます。まさに「継続は力なり！」です。

また、会社では、「売上数量100台」とか「売上金額100万円」といった具合に具体的な数量や金額で目標を設定します。「売上時間100時間」という目標掲げる会社はありません。

勉強も同じで、「今日は3時間」と学習時間を目標に置くのではなく、「計算問題を10題解こう!」とか「理論1題を必ずマスターしよう!」といった具合に、具体的な学習量を目標に設定しましょう。その方が、はるかに集中力や知識定着の面で効果があります。

◆4 目標を達成したら自分にご褒美を

「今週のノルマを達成したら、週末ドライブに行こう!」といったように、大好きな趣味や遊びを目の前にぶら下げておけば、嫌なことでも最後までやり通すことができます。「アメとムチ」ではありませんが、1週間のノルマを達成したら自分にご褒美をあげましょう。これが次の週の仕事や学習の活力となるはずです。

◆5 税理士資格取得後の自分を大いに思い描く

例えば、「10年後、独立開業して一国一城の主となり、自分だけしかできないコンサルティングの仕事をして多くの顧問先から信頼される。」といったように、資格を取得した後、税理士としてどのような仕事をし、どのような形で社会貢献するかといった将来のビジョンを具体的に持ち、それを願いつけることで、夢は必ず実現します。モチベーションを高く持ち続けることこそ、学習を継続する上での最大のポイントといえるでしょう。

<TAC>無断複写・複製を禁じます



参 考 1週間のスケジュール（モデルプラン）

1 簿記論と財務諸表論の同時受験の場合

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)	復習(簿記)		
8:00	自由	自由	自由	自由	自由	自由	自由
	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	
10:00	会社	会社	会社	会社	会社	復習(財表)	
12:00						講義 (財表)	
14:00						休憩	
16:00						講義 (財表)	
18:00						休憩	
	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	復習(財表)	
20:00	講義 (簿記)	自由	自由	講義 (簿記)	自由	移動(暗記)	
		復習(簿記)	復習(財表)		復習(財表)		
22:00	移動(暗記)	復習(財表)	復習(簿記)	移動(暗記)	復習(簿記)	自由	復習 (予備)
	自由	自由	自由	自由	自由		
0:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠
2:00							
4:00							

※ 移動時間を利用して、講義内容の復習や理論暗記を行う

2 簿記論と消費税法の同時学習の場合

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
6:00	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠 復習(簿記)	睡眠	睡眠
8:00	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由 移動(暗記)	自由
10:00	会社	会社	会社	会社	会社	復習(消費)	
12:00						講義 (消費)	
14:00						休憩	
16:00						復習(消費)	
18:00						休憩	
20:00	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	移動(暗記)	復習(簿記)	
22:00	講義 (簿記)			講義 (簿記)		自由	
0:00	移動(暗記)			移動(暗記)		自由	
2:00	自由	自由	自由	自由	自由	自由	復習 (予備)
4:00	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠	睡眠

※ 移動時間を利用して、講義内容の復習や理論暗記を行う

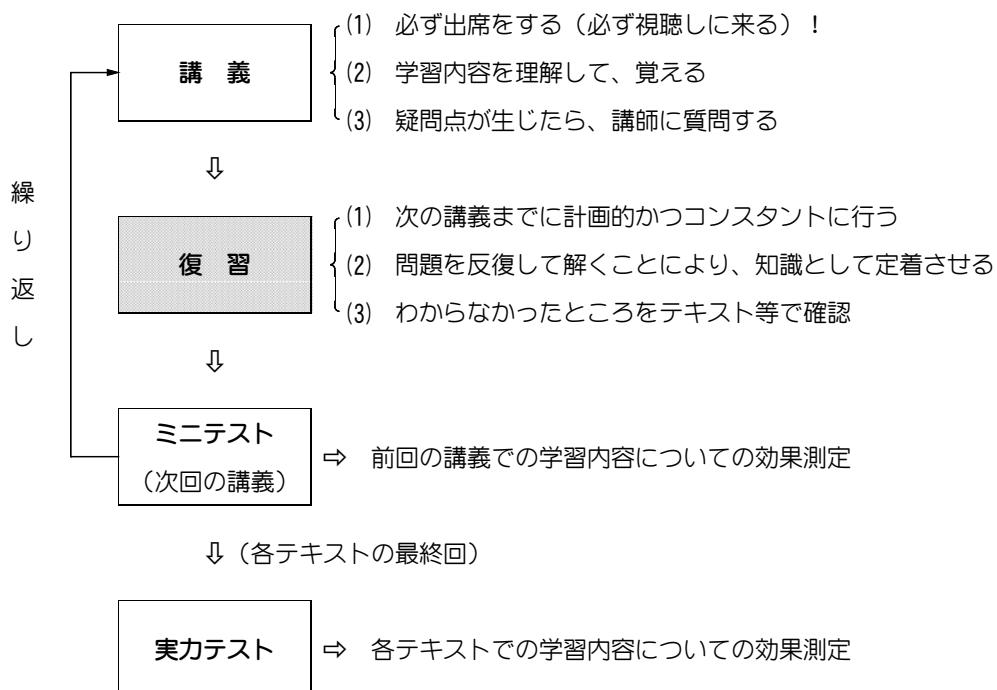
テーマ 4

具体的な学習方法

ここでは、TAC方式カリキュラムに基づく具体的な学習方法について紹介致します。

なお、通信講座の受講をお考えの方もいらっしゃると思いますので、その場合の学習方法についても言及します。

◆1 教室講座（ビデオ講座）の場合



◆2 講義

みなさんが学習を進めるうえで、最も重要なのは学習内容を正確に理解して覚えるということです。講師陣自らが研究し作成しているテキストとトレーニング（問題集）を用いて、初学者の方にもわかりやすく講義を行いますので、必ず講義には出席をしましょう。

また、疑問点が生じたら、すぐ講師へ質問をするように心がけましょう。なお、講師への質問は、講義の開始前、休憩時間及び終了後に直接してもらうことができます。また、講義以外でも、質問電話やi-supportによるメールでの質問にも対応しています。

講師は、皆さんが学習を進めていく上での「ツール」ですから、どんどん活用してください。

◆3 復習

講義以外の学習については、基本的に復習のみでかまいません。その回の講義で学習した内容の復習は、トレーニング等を使用して、必ず次の講義までに終わらせるように心がけて下さい。具体的には、トレーニング等の問題を反復して解答することにより、知識の定着化を図ることになります。また、トレーニング等を解答した時に間違えてしまった箇所は、テキストや質問電話・i-support等を利用してしっかり確認をとりましょう。

◆4 ミニテスト・実力テスト

毎回の講義の最初の時間でミニテストを実施します。これは、前回の講義での学習内容が理解できているかどうかの効果測定です。また、テキストを一冊消化するごとに実力テストを実施します。これは、そのテキストの学習内容が理解できているかどうかの効果測定です。必ずミニテストと実力テストは受けて自分の実力を確認するように心がけましょう。



参 考 欠席時のフォローシステム

TAC税理士講座では、教室の講義を欠席した場合のフォローシステムを充実させております（パンフレット参照）。

具体的には次のものがあります。

- 1 クラス自由出席制
- 2 音声DL（ダウンロード）フォロー
- 3 Webフォロー（有料）
- 4 ビデオ（DVD）フォロー（有料）

<TAC>無断複写・複製を禁じます

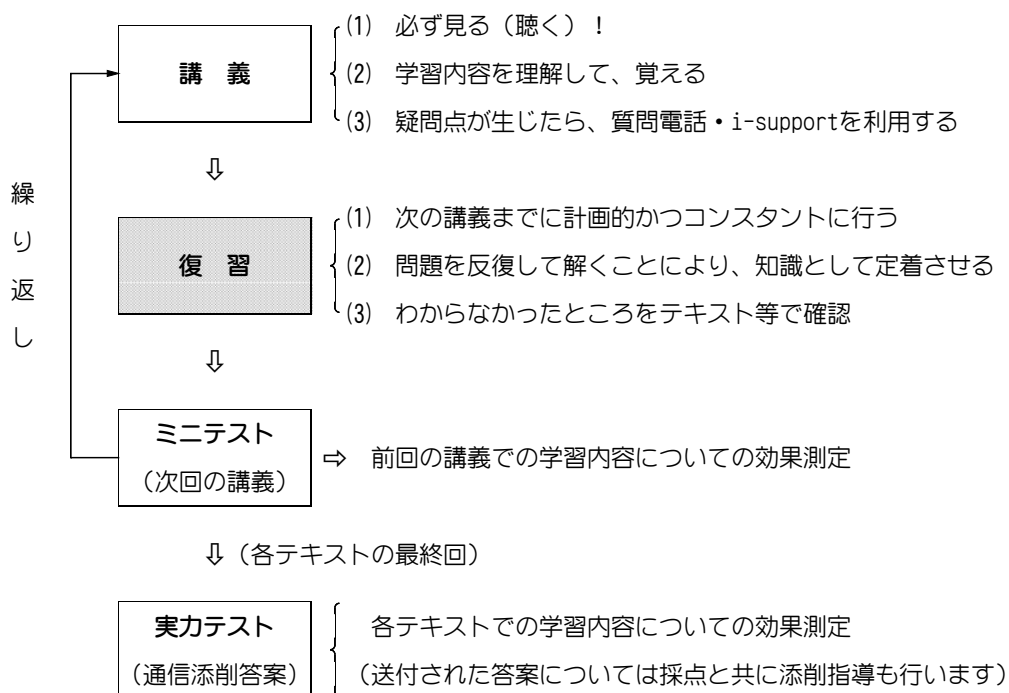
◆5 通信講座の場合

時間的制約等の理由により通学できない方向けに、自宅にいながらにして通学しているのと同じ効果が得られるように、TACでは通信講座による学習メディアにも力を注いでいます。

通信講座の学習メディアは次のとおりです。

- 1 Web+DL通信講座
- 2 DVD通信講座

なお、通信講座の場合の学習方法も基本的には教室講座の場合と同じです。



参考 スクーリング制度

すべての通信講座には「スクーリング制度（教室で無料受講できる制度）」というフォローシステムも設けています。教室の臨場感を味わいたい場合や、他の受講生のレベルを知る上で大変有用です。

最 後 に

本日は、お忙しい中、当セミナーにご参加頂きありがとうございました。

税理士という仕事は本当に魅力ある職業ですので、是非ともチャレンジして下さい。TAC税理士講座一同、皆さんの1年でも早い税理士試験合格をサポート致します。